



nakashima aya
中島 彩さん

復興プラン策定委員会委員（林業従事者・ライター）

- Profile -

神戸市出身、丹波市在住。大阪芸術大学舞台芸術学科卒業後ダンサーとして活動。27歳の時幼いころから夢であった山に関わる仕事に転職。広島・長野で林業現場作業全般に従事する。現在、市内の森林管理から木材製造販売までを担う会社に勤務し業界全体を見据えられる現場技能者、森林管理者をめざし日々奮闘中。

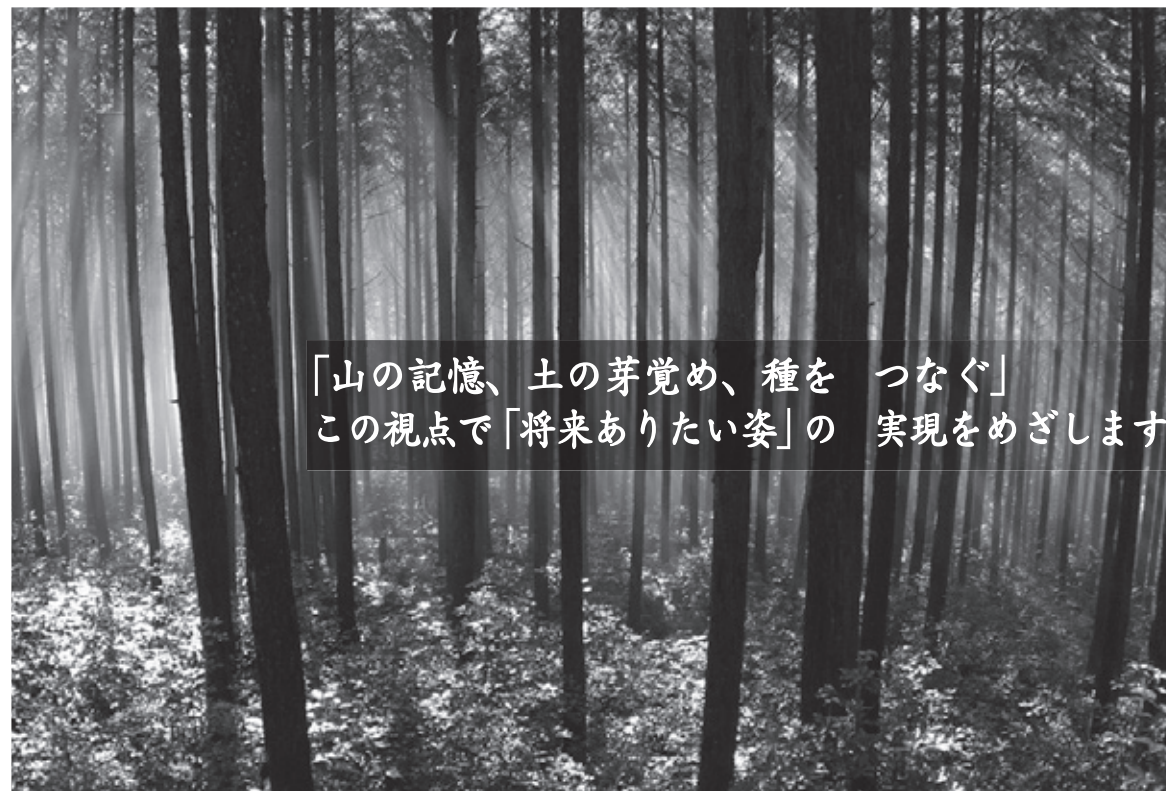
「山にものを言いたければ、山の声聞け」これは私が林業に携わった6年間で得た言葉です。山に入ると「林内が暗いな」「全く下草植生が育ってないな」などさまざまな気づきを与えてくれます。

この夏の豪雨災害は、いつの間にか「山の声」を聞くことを忘れてしまっている私たちが山との向き合い方を見直すきっかけになったのかもしれません。林業従事者だけでなく、山から木材を出したり、キノコやシキミを栽培したり、子どもの遊び場として活用したり、と地域の方が少しずつ山との関わりがもてる仕組みづくりが今求められています。

「意思を持った山」に出会うことがあります。50年後、100年後を見据え、森林形態に沿ってしっかりとプランニングされた山です。丹波市でも今後、木材の持続的な生産のための「生産林の場」、公益的機能を重視した「環境林の場」、子どもたちの「環境教育の場」などゾーニングエリアの設定を行い災害に強い森づくりに向けて整備を行うことが必要です。

復興プラン策定委員会のメンバーの一人として、次の世代へ繋いでゆく山づくりをはじめ、まちづくり、コミュニティ、住まい、農業分野との連携を考慮し、広い視点をもって丹波市の復興に挑みたいです。

「山の声」を聞くことから始めよう



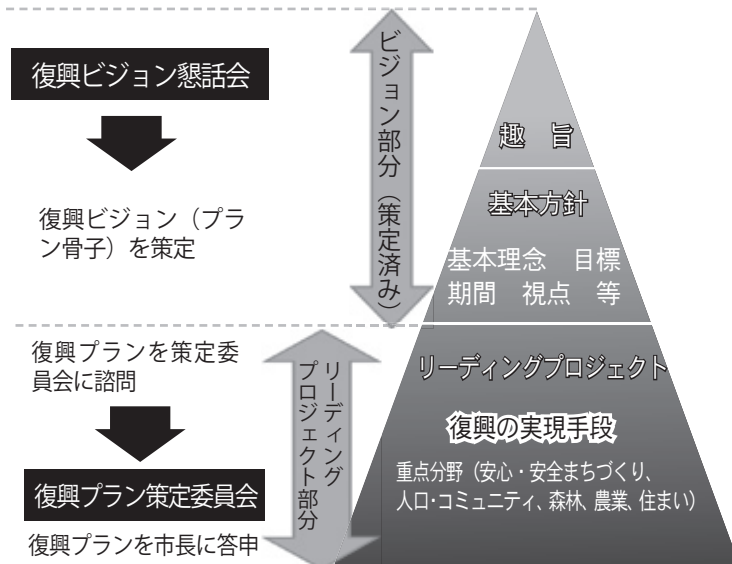
「山の記憶、土の芽覚め、種をつなぐ」
この視点で「将来ありたい姿」の実現をめざします

復興ビジョンをもとに復興プランを策定します

● 復興ビジョンと復興プランの関係

将来ありたい姿、理念などの「ビジョン部分」については、すでに災害復興経験者や知見者で構成されたビジョン懇話会で体系や枠組みなどを定めました。今後は、復興プラン策定委員会において、地域や住民の力が十分に発揮でき、かつ、実現性のある「リーディングプロジェクト（復興の行動計画）部分」について検討します。

最終的には、復興プラン策定委員会の答申を受け、市長が「ビジョン部分」と「リーディングプロジェクト部分」を合わせた「復興プラン」を策定します。



山の記憶 土の芽覚め 種をつなぐ ～1人の100歩より、100人の1歩を～

● 基本理念

災害前からの課題

- ・過疎化
- ・木材生産を担わない山
- ・農業の担い手不足 など

過疎化や担い手不足など災害前からの課題に加え、山腹崩壊やコミュニティの危機など災害後の新たな課題を「山の記憶、土の芽覚め、種をつなぐ」という3つの視点で解決し、「将来ありたい姿」をめざします。

なお、「将来ありたい姿」を表すキャッチフレーズは、公募する予定です。

将来ありたい姿

復興プラン
・山の記憶
・土の芽覚め
・種をつなぐ

災害後に抱えた課題
・山腹崩壊、住宅喪失
・コミュニティの危機
・農地被害 など

山の記憶

【過去】 山で遊んだ楽しい記憶、生業、財産としての山、山に守られた暮らし
【現在】 だれも関心を示さなくなった山、流れ込んできた木材
【未来】 山との共生、しかし、山は手入れをしないとたない

土の芽覚め

【過去】 壊れにくい地質（丹波層群）への信頼
【現在】 襲いかかってきた土への恐怖
【未来】 土がなくては根が張れない、土は農林業の源・地域の財産

種をつなぐ

【過去】 もともと人は父母や地域の中で薫陶を受け、その手触りの感覚を子どもや地域に受け継いでいった
【現在】 コミュニティやボランティアが覚醒させてくれた懐かしい手触りの感覚
【未来】 助け合いや励まし、生きがいに満ちた人間の関係づくりをつなぐ

TAKE ACTION !

成し遂げよう！
豪雨災害からの創造的復興

● 基本方針

平成26年8月16日の豪雨は、丹波市に極めて大きな被害をもたらしました。過疎化、担い手不足などの課題を抱えているなか、今回の災害が、被災地を加速度的に衰退させるのではないかとこの危惧の念を抱かせました。

一日も早くもとの暮らし、営みを取り戻すことは不可欠です。しかし、復旧が被災前の「旧に復する」だけではなりません。10年前の新潟県中越地震では、震災が過疎化の時計の針を15年～20年早めたといわれるように、豪雨が私たちの時間を先送りし、地域のもつ問題点や課題を暴き出したのも事実だからです。

悲惨な災害を機に、今こそ地域が抱えていた課題も含め、協働・連携の力で安全・安心に、楽しく豊かに、誇りをもって暮らせるまちづくり、地域づくりを進めていきましょう。

市では、平成26年8月16日の丹波市豪雨災害からの創造的復興・再生に向けた復興プランを策定するため、丹波市復興ビジョン懇話会を設置し、復興プランの骨子となる復興ビジョンを策定しました。この復興ビジョン（プラン骨子）に基づき、復興の実現手段となる丹波市復興プランを策定します。

丹波市復興ビジョンを策定しました

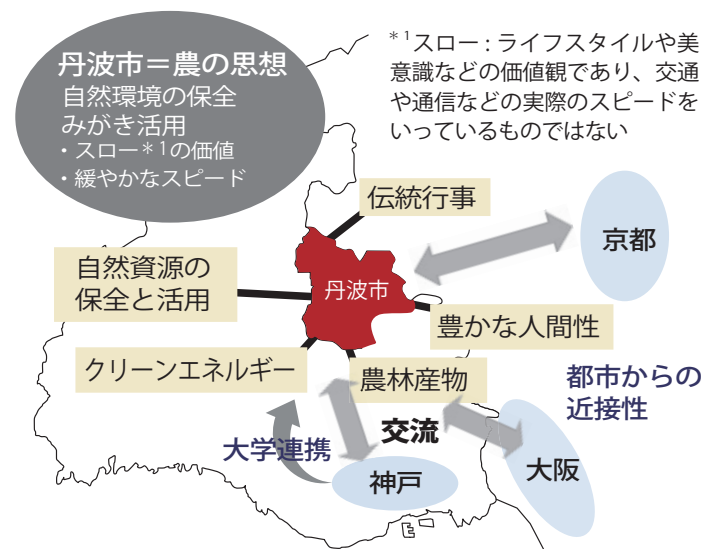
復興プランの概要

今後、復興プラン策定委員会において、人口、農業、住まいなど、各分野ごとの先導的事業（リーディングプロジェクト）の具体的な提案をもとに、復興プランを策定します。

プランの目標 災害前から災害後の新たな課題を解決し、「将来ありたい姿」をめざす

「人口は減ったけれど地域の活力は増した」「地域経済が活性化した」「人々が森林を慈しみ楽しむ心豊かな目で見て」「子ども、大人、高齢者が生き生きしている」。そのような姿をめざします。

共有する具体的なまちの未来像 イメージ図



プランの期間 復旧から復興への2ステップ

●計画期間は平成26年度～平成30年度までの5年間
●着実に復興が進むよう年次フォローアップを実施

ステージ1 復旧期
復旧事業による基盤整備
おおむね平成28年度まで

ステージ2 復興期
発展期 復興の土台づくり
飛躍期 地域のにぎわい・活力ある持続社会
おおむね平成30年度まで

プランの視点 「地域活性化」の価値観を転換
従来の地域活性化（下降気味であるものを上昇させる）の価値観を転換し、たとえ人口や地域経済量が下降したとしても「共有できる満足感を測れる新たな指標」の増加をめざし、復興を実現します。

●施策体系（リーディングプロジェクト） 前提条件：集中豪雨の時代を生きる

分野	課題		方向軸	主な取り組み
	災害前からのもの	災害後の新たなもの		
安心・安全 町づくり	以前より問題視されていた土地利用	住宅全壊、山腹崩壊	余裕域、土地利用の見直し	余裕域による建築誘導、間伐材の有効活用など
人口	過疎化による減少	さらなる流失の恐れ	持続人口＝定住人口＋パートナー（なじみ）人口	ボランティアを主とした顧客の進化、大学連携、地域指定優遇制度など
コミュニティ	衰退傾向	衰退、消滅の危機	総合性と二面性（自治組織兼経済組織）	防災からのコミュニティ再構成、特産品・ツーリズム＋α開発など
森林	建材生産を担えない山、人々の目が向けられない山	恐怖心、子孫に引き継ぐ価値の無い山	活用と保全、多面的機能、公共建築の木造化と地元材の率先利用	材質調査とソーニング、木の駅・薪ビジネス、山の空間利用など
農業	耕作放棄田、担い手不足	耕作意欲の減退	生きがい系と生業系、中核的担い手、高付加価値収益性など	農業生産基盤の再整備・改良、環境保全型農業、若者農業公社など
住まい	裏山に接近して建築	全壊・大規模半壊	住まいの確保、地元材の積極利用、コミュニティの維持	り災者公営住宅、分譲住宅地、空き家活用など

施策体系 「集中豪雨の時代を生きる」を前提条件に復興プランを策定します

災害前・後の課題を「安心・安全町づくり」「人口・コミュニティ」「森林」「農業」「住まい」の分野ごとに方向性を整理し、リーディングプロジェクトごとの先導的事業により「共有する具体的なまちの未来像」の実現をめざします。

前山復興祈年祭「その前へ」

豪雨災害から3カ月が経過した11月16日（日）に、前山コミュニティセンターで、ボランティアと地域住民でつくる実行委員会が、災害で亡くなられた尊い命を悼み、復旧活動が続けてきた被災者のみなさんに一息ついてもらうと、復興記念祭「その前へ」を開催しました。会場には、鯛めしやカレーなどの飲食ブースが並び、南米音楽や落語などの催しも行われ、訪れた人々は久しぶりの再会に笑顔を見せながら、心休まる楽しいひとときを過ごしました。

VOICE 地域の人々

全国から集まってくれたボランティアのみなさんの行動力には驚かされました。今日は直接ありがとうございますと伝えられるよい機会ですね。

藤田 忠 さん

泥だらけになって支援してくれたボランティアのみなさんには感謝感謝の一言です。みなさんの姿からボランティア精神とは何かを学ばせていただきました。

荻野邦子 さん

地域で助け合ってがんばってこられたのも、全国からの支援のおかげです。このような機会を設けていただくことで、地域のみんなの心も休まると思います。

荻野昌彦 さんご一家



豪雨災害で亡くなられた方のご冥福を祈り、1分間の黙祷が捧げられました

VOICE ボランティア

災害以降、泥出しなどを精力的に行ってきた被災者のみなさんに一息ついてもらいたいと思い企画しました。地域の人々に「前を向いてがんばろう」と思っていたくきかけになればうれしいですね。

復興祈年祭実行委員長
中村伸一郎 さん（篠山市）

前山にある実家にも大勢のボランティアが支援に駆けつけてくれました。その恩返しができる機会と思いスタッフとして参加しました。

山本 宗 さん（丹波市）



災害以降、今回が3回目の丹波市訪問です。訪れるたびに地域への愛着が増します。それも毎回あたたかく迎えてくれる地域のみなさんのおかげです。

中島のぞみ さん（金沢市）



地元市島中学校の生徒も屋台でお手伝い。数多くの市内ボランティアも活躍しました



市内のママさんグループ「虹きらら」のみなさんもカフェを開き、被災された方々をもてなしました